

桶川飛行学校平和祈念館企画展示

「銃後から戦場へ」

じゅうご

「銃後」とは戦時において、前線に対する後方のことや、直接戦闘に加わらないで前線を支援することを意味する言葉です。

戦時中は「銃後の守り」という言葉とともに、直接戦闘に加わらない国民に対しても様々な戦争への協力が求められました。

今回の展示では桶川分教場の変遷と当時の資料から、銃後であった国民が徐々に戦火に巻き込まれていく様子を紹介します。



千人針ほか当時の資料



特別操縦見習士官

展示期間 令和4年7月16日（土）から
令和4年8月21日（日）まで
休館日 7月19日（火）、25日（月）
8月1日（月）、8日（月）、16日（火）
開館時間 午前9時～午後4時30分
入館料 無料



桶川飛行学校平和祈念館

〒363-0027

埼玉県桶川市大字川田谷2335番地の16

電話：048-778-8512

Mail：hikogakko@city.okegawa.lg.jp

○電車でお越しの場合

JR高崎線桶川駅西口より東武バス「川越駅行き」乗車→
「柏原」バス停下車 徒歩5分

○車でお越しの場合：桶川北本ICより車で10分
県道12号線太郎右衛門橋の側道へ入る。

I. 銃後の生活

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場は1937(昭和12)年に開校し、以後、飛行兵の基本操縦を教える施設としての役割を担う中で、終戦まで多くの航空兵を養成し、戦場へと送り出しました。

一方で、一般の国民も戦時貯蓄債券を購入することで軍事費用への協力をしたり、慰問袋を戦場に送るなどを通じて、前線を支える銃後の役割を果たしました。



航空準備体操



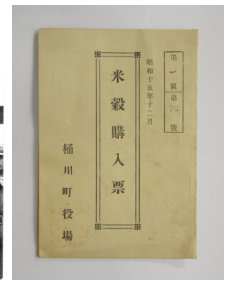
戦時貯蓄債券

II. 高まる戦争の足音

桶川分教場は1943（昭和18）年に特別操縦見習士官受け入れの為、大規模な増築が行われました。戦況が悪化する中、徴兵年齢の引き下げなども行われ、多くの国民が戦場へ向かうこととなります。また、物資の不足も顕著となり、生活に必要な物資が手に入らず代用品を使用するなど、国民の生活は様変わりしていきました。



特別操縦見習士官



米穀購入票

III. 町へと広がる戦火

1945（昭和20）年、熊谷陸軍飛行学校は閉校となり、これにともない桶川分教場も特別攻撃隊の訓練施設へとその役割を変えていきました。また、日本全国で空襲が相次ぎ、人々が暮らす町も戦場となり多くの尊い命が失われていきました。

そして、終戦の前日である8月14日の夜から翌日未明にかけて、埼玉県下で最大の被害をもたらした熊谷空襲が実行されました。



防空頭巾（復元）



皇国一八八八工場日誌

関連企画

○職員による企画展示の解説

開催日：令和4年7月17日(日)、18日(月・祝)、24日(日)、31日(日)
8月7日(日)、11日(木・祝)、14日(日)、21日(日)

時間：午後2時30分より（所要時間：約30分）

定員：各回12名（先着順、当日事務室窓口にて直接申し込み。費用：無料）

○「最後の空襲 くまがや」の放映（※埼玉県平和資料館所蔵アニメーションDVD）

期間：令和4年8月2日(火)から8月21日(日)まで（※休館日を除く）

時間：午前11時、午後1時30分、午後3時（1日3回放映 収録時間：約30分）

場所：桶川飛行学校平和祈念館 展示室4